B(ボーイ)・S(スカウト)・C(カブ)隊14団の救助訓練

津野裕子

早く
ならべまん
あれ
剱岳け?
今日からこのキャンプ場で2泊舎営をします…
ねぇ!見てー
くわがた見つけたもんねーー!
なにそれ、メスやねけ。
おいっ
みして
あ、欲しいがいろー
いるかよそんなセコいもん!
4組!話し聞けまん!

しげちゃん。
ちょっと
ちょっと

あの
川原の
向こう見て
みて。

あそこらへん
ならカブト
ぐらいおる
かもよ。
ホンマや！
ツルちゃん
あとで行こう。
……

はーー

なんやタケ、
来たばっかやねか。
元気ないのー
あ
おじちゃん

あっ！副長がタケひいきしとる！
バカ
親せきやからゆうて、ひいきしていいがかよ！
バカ

おーいゲームするぞー
各組から1人出てこーい

タケ、お前いけー
4組早よせんかい

その他の者は一列に寝ころべ
何するがけ？

「丸太ころがし」や。今選んだ者を上に乗せてあっちの壁まで運ぶがや。

……
隊長！タケ、他の者に変えたらあかんけ？
あかん！

ぎゃー
重いー
タマつぶれる
はー
4組整列！
えーこのポイントでは「もしも谷底に人が落ちたら」をやります。

「もやいむすび」わかったやろ。な？
なーんわからん
なーん

あと、タケだけやぞがんばれ。

最終ポイントここやぞ――えらい遅かったの――
タケのせいやぞ！

実は、この先に熊が出るので武器を作ります。
熊！
うそ！
出るぞー出るぞー

うおぉぉぉ
いやだ！あぁ
お前驚くなまん…
しょうもない
やろう！死ね
バカよせ
死ね死ね
晩めしまで遊んどっていいぞ——
やった！
つるちゃんさっき言うとったところ今の内に行こう！
なんちゅーキレイなが
空あやしいし早よ行こ

すげー雨
山の天気やのう。
あれ？ツルとシゲは？
ぬれっから みんな 中入られー
あの…デン・コーチ
ん？
雨止んだがじゃないがけ？
うん、びっくりしたの――。

あーっ！
シゲちゃん
……
なにこれ
どうしよう
ドドドドド

おーーい
シゲーツルー
今助けるぞー
ドドドドド
つるー
あーーー！
隊長ー
今ロープ
渡すぞー

近くの木に
「ねじむすび」しろ。
知っとるやろ。

よし！

！
ビ

おじちゃん
すげー

そうや…
今日習らった
やろ

しっかり
しがみつい
とれよ。
うん

このさわぎで川で冷やされていた
スイカやジュースの事は、すっかり
忘れられてしまい
秘密のビールも行方不明――
大人達の味けない夜は長い。
今回の舎営、団体
活動がわかっとらん
人とかおったけど
隊長は、
いつもの訓練が
ちゃんと役に立っとる
ことがわかってうれし
かったです。
それに
勉強になったねえ。
自然はあなどれ
ないという事
……
タケ
タケ

あ、うん？
ぼくらのおった所言うてくれたがお前ながいと？
それ一匹お前にやっちゃ。
バーイ
向かえのないヤツ送ってってやるぞ——
あ——乗せてー
ぼくも
ぼくもー
せまいからヒザの上乗ってもいいぞ。
ぼく、ぼく乗るもんね！
へーすんなよ
ぎゅー

バタン
タケ
着いたぞ
いつのまにやら だれもおらん…
カサカサ

北島ラーメン
あれ？
又なんか言われるから誰にも言うなよ。

タケはもっと積極的にならなあかんよ。
スカウトどうけ？面白くないけ？

ぼく……わからん。
おじちゃんとママが
入れ言うたから
やっとるけど
ぼくようついて
いけんし、みんなに
迷惑かけとるし
パキャッ
あ
片思い……

別にかけて
ないよ……。
それに今回
活躍したやろ？
……

お——
荷物ぐらい
もってけまん。
ただいま！！
おかえりー
お風呂わかして
あるよ。
おう
おかえり
タケ。

あんたもお
たまにはゴハン
食べてってまん。
うーん

どうけ、
うちのタケ
ちゃんとうまいこと
やっとるけ？
そうりゃ
もう

ねえちゃん心配しられんな。活発なタイプほどいろいろ興味とかうつってな――タケぐらいがわりと物事長続きしたりするがいぜ。
そうやよね、そうやよね！あんただってちゃんと続けてやっとるもんね。
お――あいつ、おれの小さい時とそっくりやからのー
あーあ
ザバ
おしまい 6/7

ガロ名作劇場⑦
『ガロから巣立った一流作家』

矢口高雄
池上遼一

インタビュー

■矢口高雄（YAGUCHI TAKAO）

本名、高橋高雄。1939年、秋田県生まれ。高校卒業後、地元の羽後銀行に就職。本誌『ガロ』69年4月号に『長持唄考』で入選。70年に漫画家を志し銀行を退職、『少年サンデー』誌でメジャーデビュー。74年には大ヒット作『釣りキチ三平』、『幻の怪蛇バチヘビ』で講談社出版文化賞受賞、76年には『マタギ』で日本漫画家協会賞受賞。デビュー以来一貫して自然と人間との関わりを通じて、人間のリアリティーを描き続けている。

■池上遼一（IKEGAMI RYOUICHI）

本名同じ。1944年、福井県生まれ。大阪で貸本漫画を執筆中の65年、本誌『ガロ』を知り、翌66年9月号に『罪の意識』で入選。これが水木しげるの目にとまり、水木プロに入る。70年には『少年サンデー』連載の『男組』(原作／雁谷哲）が大ヒット、以後『フリーマン』(原作／小池一夫）など数々のメジャーヒット作を発表。特に画力、キャラクターの魅力は評価が高く、その人気もアジアのみならずアメリカでも高い。

■解説…呉智英
■矢口さん、池上さんのこと…長井勝一

Interview by ;白取千夏雄（編集部）
Photo by ;山中　潤（ex『長井勝一』）